

3、56、0

（包紙表）

「徳田主水公より勝起幼年
之節京都より被相送候
書翰此内ニ有之事」

（包紙裏）

「御奉書写二通」

「阿部様

御来状

数通共

大切もの也」

3、56、1

猶々随分手習被情

出便り之節度々御状可

被指越候、以上

去ル三月七日之御状何

方ニ相滞候哉、先月十五日

相達令被見候、弥

御無事被致成人候由

珍重存候、爰元無別条

我等無異ニ相勤申候間

可御心頭安候、九右衛門儀

兼而之願

大守様被遊御聞届

三月十五日願之通被

仰出之旨目出度存候

御自分ニ（）江戸留主中

手習学問之儀被

情出、追付九右衛門

名代被相勤候様

御心掛可然候、少_茂

油断有間敷候

猶重_而可申承候

恐々謹言

徳田主水

六月二日 光茂（花押）

大谷庄九郎殿